

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北海道)	◎	一般小売店〔土産〕（経営者）	・年配客も含めた幅広い世代において、北海道旅行への需要が高くなっていることから、これから夏の観光シーズンを迎え、好調に推移すると見込まれる。地震などの災害や海外情勢の悪化が生じない限り、客の購買マインドが落ち込むことは考えにくい。
	◎	観光名所（従業員）	・今後も円安が続くことで、インバウンドがますます増え、財布のひもも一段と緩むことが期待できる。また、これまで海外旅行を選択していた客層が、国内回帰しており、ぜいたくな国内旅行を楽しんでいる様子もうかがえる。これらのことから、今後も、多くの観光客でにぎわうことを期待できる。
	○	一般小売店〔酒〕（経営者）	・中東情勢が落ち着きそうなことで、客の心理面にも良い影響が生じている。そのため、今後の景気はやや良くなる。
	○	百貨店（販売促進担当）	・これから夏が訪れ、多くのイベントが始まることで、来道者が増加することになる。当店の来客数も少しずつ増加することになり、それに伴って売上も回復していくと期待できる。
	○	コンビニ（エリア担当）	・インバウンドが増加傾向にあるなか、夏休みを迎えて、国内からの旅行者も増えることになる。客の財布のひもも緩むことを期待している。
	○	乗用車販売店（経営者）	・前年や3か月前と比較すると、新車受注が若干増加している。また、これまで受注を制限していた車種の受注受付が順次再開する予定であること、整備工場への入庫が増加傾向を維持していることから、今後、収益が上向いてくると見込まれる。
	○	乗用車販売店（経営者）	・年度後半までは、現在の好調が続くと見込まれる。ただし、金利上昇に伴う支払金額や手数料の増加が足かせとなり、利益を押し下げることが懸念される。
	○	高級レストラン（スタッフ）	・今後については、季節要因に加え、観光需要の高まりにより、客の利用機会の増加を期待できることから、景気はやや良くなる。
	○	旅行代理店（従業員）	・中東情勢の影響などにより、物価が上昇し、消費マインドが低下する懸念があるものの、国内客については、夏の観光繁忙期を迎えて、需要の伸びが期待できる。ただし、インバウンドについては、全体的に需要が落ち込む時期であることに加え、中国路線の減便、運休が影響し、前年並みの水準にとどまるとみられる。
	○	旅行代理店（従業員）	・道民生活応援ポイント給付事業の実施により、消費額の増加につながることを期待できる。
	○	タクシー運転手	・今後、地元の祭りなどが開催されることから、利用客が増加すると期待している。
	○	タクシー運転手	・今後、暑い日が続くようになることで、タクシーの利用率が上向くことになる。観光客も増加してくる時期であるため、今後の景気はやや良くなる。
	□	商店街（代表者）	・航空運賃が高騰していることもあって、海外旅行への意欲が薄れ、国内旅行に目を向ける傾向が若干強まっている。6月はグループ旅行などが好調に推移したことから、今後も同様の傾向が続くことになる。
	□	商店街（代表者）	・毎週日曜にイベントを開催しているものの、平日の来客数増加にはつながっていないことから、今後も厳しいまま変わらない。
	□	一般小売店（経営者）	・世界情勢を含めて、景気が上向くような明るい兆しがないため、今後も改善が見込めない。
□	百貨店（売場主任）	・インバウンドについて、少なくとも8月までは前年を上回って推移すると見込まれる。そのため、国内客が前年並みで推移すれば、売上が増加することになる。	
□	スーパー（店長）	・今後も景気は変わらない。ただし、ナフサなどの石油関連製品の供給不安や価格高騰による影響が落ち着いたり、消費税減税の見通しははっきりしたりすれば、多少上向くことになる。	

<input type="checkbox"/>	スーパー（店長）	・消費税減税はまだ先の話であることから、景気が大きく変化するような状況は見込めない。
<input type="checkbox"/>	スーパー（企画担当）	・中東情勢の影響で、食品や資材などの価格上昇が続いていることから、今後も消費者の節約志向が続くことになる。
<input type="checkbox"/>	スーパー（企画担当）	・原油価格高騰の影響により、7月又は8月に資材の値上げが予定されている。商品価格への転嫁は避けられないため、様々な商品で値上げが行われることになる。一方、中東情勢が落ち着くことで、消費行動が活発化し、販売量が増加に転じることが期待できる。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	・商品の値上げが進むことで、客の買い控え傾向が当面続くと見込まれる。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	・原油の輸入が滞っていた時期があったことから、秋頃に、様々な石油関連製品の値上げが行われる懸念がある。一方、今年の新米について、価格が下がることが見込まれる。そのため、景気が良くなるのか悪くなるのか判断できない状況にある。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（エリア担当）	・今後も天候によって売上が左右される状況は変わらない。
<input type="checkbox"/>	家電量販店（店員）	・エアコンの新たな省エネ基準が2027年から適用されることで、今年前半の売上は好調に推移していたものの、ここに来て動きがやや落ちてきた。販売量はまずまずであるものの、高価格帯商品の動きが鈍くなっていることから、今後も景気は変わらない。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	・景気が上向くような動きはみられないものの、今後、中東情勢が徐々に落ち着き、物の流れが良くなることで、車の売行きも上向いてくると期待している。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	・今後、新型車の割当て台数が増えることで、新車の販売量が増加することになる。一方、高額車については、現在も販売枠を残している状況であり、客が購入しやすい価格の車種が導入されることになれば、販売にもつながってくる。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	・ここ数か月、前年比の動きは良くも悪くもなっていない。景気が良くなるような要因も見当たらないため、今後も景気は変わらない。
<input type="checkbox"/>	自動車備品販売店（店長）	・今後については、季節商材の販売や洗車の利用が増えてくる時期であるものの、高単価商材の販売が落ち着く時期でもあるため、全体的な景気は変わらない。
<input type="checkbox"/>	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・受診した病院などでの説明不足をきっかけに、当店を訪れるケースがみられる。一歩踏み込んだ健康相談を行うことが、今後に向けてのポイントになってくる。
<input type="checkbox"/>	その他専門店〔造花〕（店長）	・現状、変化はみられない。商材の仕入れについては、秋口まで見通しが立っていないため、今後の動向を判断しづらい状況にある。
<input type="checkbox"/>	高級レストラン（スタッフ）	・地域一体となった人気アニメのイベントは、7月で終了するものの、これから観光シーズンの最盛期を迎えるため、現在と変わらず好調に推移することが見込まれる。
<input type="checkbox"/>	スナック（経営者）	・コロナ禍をきっかけに、業界全体の景気が落ち込んでいることから、今後も景気は変わらないまま推移する。
<input type="checkbox"/>	観光型ホテル（スタッフ）	・中国からのインバウンドの減少が続いている。一方、中国以外の国や地域からのインバウンドは横ばいで推移すると見込まれる。国内客については、一定の夏季需要が見込まれるものの、物価上昇の影響もあって、大幅な増加までは期待できない。これらのことから、今後も景気は変わらない。
<input type="checkbox"/>	旅行代理店（従業員）	・今後数か月でインバウンドの旺盛な客足が落ち込むような要因は見当たらないため、国内の主要ホテルや観光地は強気の価格設定を維持すると見込まれる。国内旅行を検討している国内客にとっては、高すぎて手が出ない価格となるため、旅行控えの動きが強まることが懸念される。
<input type="checkbox"/>	旅行代理店（従業員）	・中東情勢の影響により、今後も旅行控えの動きが続くと見込まれる。一方、9月の大型連休の先行受注はまずまずの状況であり、今後の駆け込み需要の増加も期待できる。全体としては、景気は変わらないまま推移する。
<input type="checkbox"/>	タクシー運転手	・例年、春先から6月初旬までの過ごしやすい季節が年間で最もタクシーの利用が減る時期であるため、これから暑くなる季節を迎えて、タクシーの利用が増えると期待している。

□	タクシー運転手	・今後も中東情勢の影響が続くとみられることから、景気が上向くことは考えにくい。
□	通信会社（企画担当）	・今後については、地域イベントの開催などもあって、人流の増加する時期となるため、一定の需要は見込まれる。ただし、既に需要が一巡しているとみられるため、大幅な伸びまでは期待できない。また、客の消費行動は安定的だが、物価上昇が続いていることから、新たな支出に対して慎重な姿勢が続くことが見込まれる。そのため、消費が一段と拡大することは考えにくく、当面は現状と同水準で推移する。
□	美容室（経営者）	・極端ではないものの、支出を抑えようとする客の雰囲気を感じられる。客の来店周期が伸びていることに加え、関連商材の販売量も減少している。当分の間、こうした状況が続くことになる。
□	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・8月頃までは観光の最盛期であることから、現状と同様の状況が続くことになる。
□	住宅販売会社（経営者）	・金利が上昇傾向にあること、円安が続いていることから、今後も原価の高騰と売上の減少が続くことになる。
□	住宅販売会社（従業員）	・今後も、石油関連製品の供給不安が懸念されることに加え、住宅ローン金利の上昇が見込まれることから、客の購買意欲がますます低下すると見込まれる。
▲	商店街（代表者）	・客の購買意欲が上向いてこない限り、厳しい状況が続くことになる。
▲	スーパー（店長）	・販売動向が不安定なことから、今後の景気はやや悪くなる。
▲	スーパー（役員）	・商品の値上げは、これから本格化することになるため、物価上昇に伴って、客の節約志向がますます強くなるとみられる。
▲	スーパー（従業員）	・物価上昇が続いていることから、今後の景気はやや悪くなる。
▲	衣料品専門店（経営者）	・円安が一段と進む懸念が強まっていることから、今後の景気はやや悪くなる。
▲	住関連専門店（役員）	・今後、様々な商材で値上げが予定されていることから、買い控えの動きが一段と強まることになる。そのため、景気はやや悪くなる。
▲	高級レストラン（スタッフ）	・インバウンドの入込は好調に推移しているものの、消費額の多い中国人客が減っていることから、インバウンド全体の客単価が低下することになる。一方、国内客については、物価高の影響が出てくる懸念される。これらのことから、今後の景気はやや悪くなる。また、輸入食品の価格が大幅に上昇していることから、国産食品の安定供給に向けて、農林水産業の振興を一段と進めてもらいたい。
▲	観光型ホテル（経営者）	・夏季の国内個人客の予約が低調なことから、今後の景気はやや悪くなる。国内線航空運賃の上昇、宿泊料金の高騰、その他物価の上昇により、旅行費用が上昇していることが影響しているとみられる。
▲	タクシー運転手	・物価高騰が落ち着き、消費税減税の動向が不透明な限り、景気は変わらない。
▲	美容室（経営者）	・客から、物価上昇を憂慮しているとの話を聞く機会が増えている。店頭商品の売上も、ここ3か月ほど落ち込んでいる。このため、今後も、こうした状況が続くことになる。
▲	住宅販売会社（経営者）	・建築単価の上昇が続いていることから、これから供給される分譲マンションの価格が一段と上昇することになる。このままでは、実需の客がマンションを購入できなくなり、投機や民泊利用などを目的とした購入が増えてくることになる。
×	コンビニ（エリア担当）	・工事現場の減少や不漁の影響により、住民の収入が減少すると見込まれる。そのため、今後、消費が大きく落ち込むことが懸念される。
×	衣料品専門店（店長）	・物価高の影響もあって、価格戦略が難しくなっている。商品の売行きも落ち込んでいることから、今後の景気は悪くなる。
×	美容室（経営者）	・材料費が値上がりしていることから、今後の景気は悪くなる。
◎	農林水産業（経営者）	・今後については、青果物の収穫最盛期を迎えることから、活況と見込まれる。
企業動向		

関連 (北海道)	○	建設業（経営者）	・中東情勢の影響で、資材などの入荷にめどが立たない状況となっていたものの、ここに来てその状況から脱しつつある。見積依頼も少しずつ増えている。
	○	輸送業（支店長）	・中東情勢の影響が落ち着くことを期待している。
	○	通信業（営業担当）	・半導体関連企業の事業が順調に推移しており、関連企業の進出が一段と活発になると期待している。
	○	金融業（従業員）	・現状、最大の懸念事項である原油価格について、中東情勢の影響が生じる前の水準に戻りつつあることから、今後の景況感はやや良くなる。
	○	司法書士	・引き続き相続関連業務の依頼が多くみられることから、今後の景気はやや良くなる。ただし、建築費の高騰などにより、住宅新築の少ない状況が続くことも懸念される。
	○	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	・資機材の価格高騰と人手不足の影響もあって、先行きへの不透明感はあるものの、国内の建設投資は、受注残も含めて安定して推移していることから、当面は堅調に推移することが見込まれる。
	□	食料品製造業（従業員）	・今後も、現在と同様の状況が続くとみられる。
	□	食料品製造業（従業員）	・内容量を見直した商品を販売する予定はあるものの、先行きの動向がどうなるかは不透明である。
	□	食料品製造業（従業員）	・時期的な面では、景気が上向くとみられるものの、空港の免税エリアで食品以外の購入割合が増えていることから、今後の苦戦が見込まれる。世界情勢が相変わらず不安定なこともマイナスである。
	□	家具製造業（経営者）	・中東情勢が落ち着いたとしても、景気がすぐに良くなるとは考えにくい。
	□	建設業（従業員）	・現状の人手不足がすぐに解消されることはない。今後、人手不足感が一段と強まることが懸念されるため、景気は変わらない。
	□	建設業（役員）	・今年度上半期は、計画を上回る工事量を確保できており、今後も好調に推移する見通しに変わりはない。一方、物価高騰や中東情勢の先行き不安が、燃料などのエネルギーや建設資材の価格及び供給体制に影響を及ぼすことも考えられ、利益面での懸念材料となっている。
	□	広告代理店（従業員）	・物価高騰が長期間にわたって続いていることから、消費者の購買に伸びがみられない状況にある。そのため、今後も景気は変わらない。
	□	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・相変わらず新規案件が少ない。過去に受注した継続案件でのいい状況であり、今後も厳しいまま変わらない。
	□	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・引き合いなどは少しずつ増えている。補助金などを活用することで、今後の受注につなげることができないのではないかと期待している。一方、建築鉄骨関連は、当初の見込みよりも案件が少ないことが影響して、ベース商品の動きが伸び悩んでいる。全体的には、コスト増や人手不足が解消されない限り、景気回復は難しいとみられる。
	▲	金属製品製造業（従業員）	・新築住宅が減少している1番の要因は人口減少であり、これに住宅価格の高騰が追い打ちを掛けている。また、カーボンニュートラルの進展により、住宅の断熱性能が向上し、暖房負荷が小さくなっていること、全館空調の採用により、パネルヒーター離れが進んでいることもマイナスである。こうした状況を踏まえると、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	司法書士	・今後も景気は徐々に低迷していくことになる。中東情勢の影響による物流停滞や円安に加え、税や社会保険料の負担増加などもマイナスである。景気を向上させるには、中小企業や一般消費者に目を向けた政策などを一層充実させていくことが必要である。
×	—	—	
◎	—	—	
雇用 関連 (北海道)	○	学校〔大学〕（就職担当）	・企業の採用ニーズは引き続き高水準で推移しており、今後も緩やかに上向いていくことになる。

人材派遣	□	人材派遣会社（社員）	・新卒が入社して3か月が経つことから、そろそろ転職を考える人材が出てくることになる。そのため、今後、登録者が増えると思込まれる。新卒を予定どおりに採用できなかった企業が、こうした人材の獲得を視野に、採用活動を強化していくとみられる。
	□	人材派遣会社（社員）	・求人の動きに変化がみられないことから、今後も現状維持で推移する。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・中東情勢に収束の兆しがみられ始めているものの、物価高、品不足は当分続くとみられる。そのため、人材採用に企業の目が向くまで、しばらく時間が掛かることになる。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・求人広告の申込件数が前年から15%ほど減っている。M&Aや閉店、廃業を検討する企業も少なくない。そのため、今後の景気は良くても現状維持で推移する。
	□	職業安定所（職員）	・現状、景気が上向きような要素が見当たらない。また、求職者が減少し始めており、今は辞めるときではないと考える人材が増えていることがうかがえる。
	□	職業安定所（職員）	・新規求人数の減少が続いているものの、それが景気の悪化に直結しているとはいえない状況にある。そのため、今後も景気は変わらない。
	▲	求人情報誌製作会社（編集者）	・中東情勢の影響や物価高、円安が落ち着くような動きが出てこない限り、景気が良くなることは考えにくい。
	▲	職業安定所（職員）	・原材料価格の高騰に伴って、商品価格が上昇している。こうした動きが落ち着く傾向もみられないことから、今後の景気はやや悪くなる。
	×	*	*